~~高城様~~
大西

日本ボーイスカウト京都連盟

京都第38団育成会

年次総会―資料

1981

昭和56年10月 17日 (土)

於 長 休 寺 本 堂

年次総会次第および議案

開　会　式

1, 開式のことば
2, 国　旗　儀　礼
3, 讃歌　「衆　会」
4, 礼　　拝
5, 仏教章授与
6, 小川顧問挨拶
7, 閉式のことば

会　　議

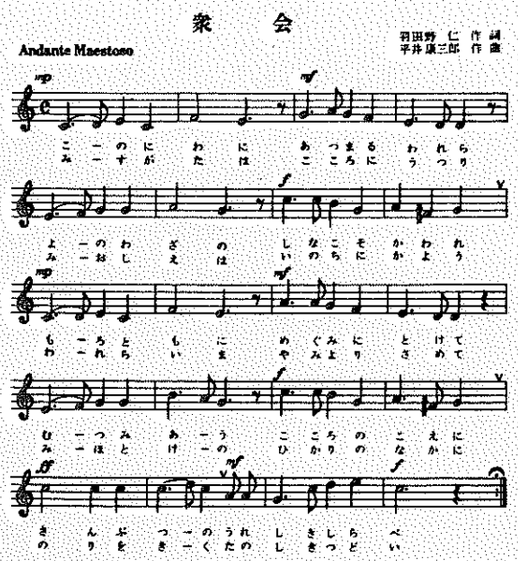
1, 団委員長挨拶
2, 議長・副議長の選出
3, 議長挨拶
4, 記録係の任命

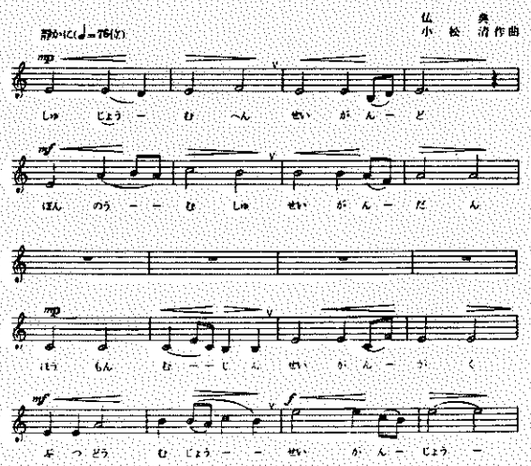
議　　案

1, 昭和55年度各隊活動、団行事報告。
2, 昭和55年度収支決算報告。
3, 昭和56年度顧問、育成会長、会計監査の選出。名誉会員の推薦。
4, 昭和56年度団委員並びに役務分担承認。
5, 昭和56年度各隊指導者選任報告。
6 昭和56年度活動計画について。
7, 昭和56年度収支予算について。
8, その他。

閉　会　式

1, 開式のことば
2, 育成会長の話し
3, 讃歌　「四弘誓願」
4, 礼　　拝
5, 国　旗　儀　礼
6, 閉式のことば





新　年　度　を　迎　え　て

本年度の上進式も、雨天の中、それぞれのスカウト諸君が、一人一人　何かを胸深く感じ取ると共に、又新らたな決意をもつて上進してくれましたこと、いつもながら、胸うたれるものでございます。　それにつけても、スカウトが、スカウテイングを楽しみ、道を歩み得ますことは、育成会各位のなみなみならぬ団へのご奉仕の賜と存じます。厚く御礼申しあげます。

世界から羨望の眼で見られる近代文化の現時点にあつて、生きる根本感覚を見失つていいるといわれる今日、更にスカウト訓育の重要性がうたわれております時、スカウト訓育の原則に基いて展開がなされております本団はまことにありがたくもうれしいことであります。　それだけにリーダー諸兄の奉仕活動も、そのプログラムの展開に、家庭、お仕事を通して(が)ご(へ)奉仕、何かとご苦労をしていただいておりますことに深く感謝せずにはおれません。

私達がスカウト活動に取り組みますと必ず突きあたりますことの一ツに、私達成人も、スカウトも、自已そのものが、自分自身が問題になるということがございます。「　ちかい　」一ツを取りあげても、キャンプに於けるスカウト（初級）の水吸みにしても自分自身が問題となつています。それがリーダーに問いとして語りかけて来ます。　生活を通しての相互の語りかけ、問いかけは、すばらしいことと存じます。訓育のプロセスの中に繰り返され、リーダーとの人間関係がつちかわれ、いつしかスカウトの道を体得して行つてくれるのでしょう。

教育基本に示されています<人格完成>、スカウト訓育の目的、も容易なことではありません。そこに宗教がなければ猶のことと思います。その時点に、スカウト訓育にあつては「　ちかい　」があり、宗教を抜いては、この訓育の成り立たない事を教えています。　さうした時点から申しましても、日頃つくづく思いますことは、自分自身に対する甘さが、即スカウトに対する甘さとなつて出てくることを痛感いたしております。仏と国とに誠をつくすという実践にしてもそういうことが言えましょう“仏に誠をつくす”とは、その教えに誠に生きるということを意味します。その誠とは、至上の心であましょう。現実には、至上になり得ない自分を見い出します。　至上心であり得ない自已につねに問いをかける。問いをかけて生きることが、誠に生きる、誠をつくすということであろうと思います。もう紙面がありませんが、その時に自分の思いから初まつた生き方が、自分を可愛がり、育くんでく

れた仏、親、人々の、つらい思いをし、苦労したであろうと、生きる自分の背後が教えられてくる。それが、自然につちかわれて、いつしか心から、やつて行こうと立ち上る境涯がつちかわれてくるのしよう。主体性のある真の道であろうと思います。スカウティングの道を歩むとはこのことであろうと思います。

本年度も、何かと一人一人のスカウトが、健やかに育成されますことを願とし、よろしくお願申しあげご挨拶といたします。

小川玄諦（終）

あいさつ

三拾　日頃皆様には　団育成と運営に何かと御協力を賜り　厚くお礼申し上げます。

当38団育成会が1本化して早や一年が過ぎ　よちよち歩きの幼児の如く　今後財政等　色々と考えなくてはならない問題を抱えて今日を迎えました。

近頃は新聞紙上等に小、中学生の非行問題　それに対する親、教師のあり方が連日のように掲載されて居ります。自分の子供をボーイスカウト活動によって少しでも良き社会人にしたいと願っている私達にとっては親が先づこの活動を勉強し、理解し、そして協力（ボランティア活動）をせねばならないのではないでしょうか。リーダーとしてであれ　団委員又育成会員としてであれ　その立場に於て　結果はともあれ　誠心誠意でやらねばならないと思います。

育成総会を機にこの一年私自身まじめに　しっかりとやりたいと心しております。

小川先生御指導のもと、皆様方の一層の御理解と御協力を賜り　38団がより良きボーイスカウト団になる様切望致します　弥栄

団委員長　西村巻一

昭和55年度

38団カブ隊行事報告書

隊集会 年月日	隊集会 テーマ	本部会議	デンマザー会議	デンテーフ会議	活動内容
S.55 9.21	みんなできずこう サンポデデン	9.12			御所
10.19	きたえろ サンポデカブ座手	10.6	10.9 10.27	10.4 10.25	(雨)
11.23	〃 ゆれる大谷スカウト。	11.7 11.29		11.29	組集会で東本願寺見学。 仮入隊式(御所)
12.21	あげろサンポデ たこあげ軍団	12.1	12.1 12.26		入隊式(ハウス玉林)
S.56. 1.18	さがせ 〃北山雪男。	S56.1.9 1.30	1.26	1.24	雪中ハイク ニノ瀬組コリ～曼荼羅山
2.15	〃白銀に組旗を ひるがえせ。	2.6 2.20	2.22	2.22	スキー 花背。
3.28.29	北山に カブコールこだます	3.15	3.16		春の一泊隊集会 (白川村)
4.19	サンポデ 〃サイクル野郎〃。	4.9	4.3 4.24	4.9 4.24	(雨) 鴨川
5.24	めざせ サンポデアーテスト	5.14	5.28	5.30	宇治及山
6.21	西部開拓史	6.7 6.14			北山地区カブラリー
7.12	あつまれ 組長のもとに	7.3 7.18 7.19	7.4 7.18		ピクニック (曼荼羅山)
7.30.31 8.1.2	夏合宮 ビッグ・アドベンチャー	8.5	8.5	8.5	三重県曼荼羅、 〃みさきの家。
8.30	サンポデ カブマリンー	8.22			鴨川グランド

主な行事

S.56.10.20	新入説明会(ハウスホール)	S.56.5.10	合宮地下見、曼荼羅みさきの家
11.9	大谷スカウト報恩講(東本願寺)	6.14	月の輪 結成式。
11.15	長林寺スカウト報恩講	6.27 28	曼荼羅みさきの家下見。
12.21	団行事、入隊式。	7.9	夏合宮説明会
12.30	訓練納め。	8.5	合宮反省会
S56.1.1	新年の集い	8.29 30	月の輪組一泊体験キャンプ (比叡山、横平代表)
2.22	テーマ自由会、及び保護者会		
3.7	春の一泊説明会		
3.21	緑化募金運動。		
4.5 19			

一年を振り返って

この一年スカウトたちと、本当にたのしく活動ができ、又きびしい訓練(育)をくりかえしてきた。そんな中で、スカウトたちは自分の役割を自覚し、自分でできることをいっしょうけんめいがんばってくれた。そして、各集会の出席においても、多くのスカウトたちが皆勤賞を獲得してくれたことは、まじめに活動に取り組んでくれたからだと思います。今年から新しいこころみとして組長会議を行い、スカウトたちの意見を聞き、プログラムに組みこむことができた。短い時間と少ない回数であったが大きな意義があった。

年間計画での続出ともいうべく、夏合宮は遠く"海と山"の景勝地、曼荼羅でおこなうことができた。風と雨の歓迎を受け、2日間のプログラム変更をよぎなくされたが、スカウトたちは風雨の中、不平不満を言わず訓練をなしとげてくれた。初めてのテント生活はスカウトたちに組の"和"を強調させる材料にもなり、そのまとまりで全員のスカウトが無事、合宮を終えられた。

この様に、スカウトたちが大きく前進してくれたことは、4名のデンテーフがいてくれたこそだ。この一年間、デンテーフの役割は非常に大きなウエイトをもち、組集会、組のまとめ、進級等の指導、助言し、本当によく活動してくれた。ここに深く感謝するとともにB.Sでの活躍を祈ります。又隊長は、デンマザーの選任を母の会にゆだね協力をお願いした。その結果3ヶ月間交代で御奉仕頂くことになり、多くのお母様方にデンマザーの仕事、カブスカウト活動に対し、深く理解をしていただいたことと思います。やっとスカウトたちと慣れてきたころに交代ということで、"残念"であったとこえを耳にします。他方では御家族の方の"協力と理解"がいかほどであったか痛切に心うつしだいです。ここに厚くお礼申し上げます。

そして、この"協力と理解"は今後38団のスカウト活動の基本となると確信しております。

一年間、隊の運営をまかされ、団各位様の絶大なる協力を得て、つつがなく終えられたことを厚く感謝しております。

カブスカウト隊隊長　下坂紀一

BS隊　活動報告

年間　プログラム

月	テーマ	隊集会	摘要
9	基本（あか、あお、きいろ）	9/23 長休寺	
10	結索（すみやかに美しく）	10/26 下鴨神社	
11	通信（赤と白）	11/30 大文字山 昆沙門（山科）	ちかいの式（17:00より） 報恩講11/5 大S報恩講11/23
12	救急（尊い命）	12/28 御所ハウス長休	ゲーム大会（午後から） ホーイフェスティバル12/21
1	雪中ハイク（雪山こえて）	1/25 奥貴船旅	新年のつどい 1/1
2	体力づくり（いい汗流そう）	2/22 加茂川堤 ひらぎのグランド	
3	読図 観察（地図との比較）	3/21 オリエンテーリング（深泥池）	地区グリーンバー訓練3/15
4	火災 奉仕（みんな迷コック すすんで奉仕）	4/26 ハイキング（鞍馬 静原）	緑の羽根募金（京都駅） 64団10周年パーティー（グリーンバー）
5	キャンプの準備	5/30-31 オーバーナイトハイク（花背・芹生）	~~緑の羽根募金（京都駅）~~
6	工作（ミニ大工）	6/28 長休寺	地区グリーンバー訓練 6/17
7	健康安全（健康チェック）	7/19 長休寺	
8	キャンプ 反省（わが旗かざして）	8/19～24 隊キャンプ（浜詰）	京都キャンポリー（あいば野） 8/17～10

スカウト

班	班長	次長						
ワシ	三田（2）	園田（初）	神田（初→2）	橋（初）		原田（初）	西脇（初）	下坂（初）
ヤギュウ	服部（2→1→角）	西脇（初）	南（初→2）	松永（初）	永田（初）	石田（初）	隅田（初）	
コイ	西村（初→2）	前田（初→2）	多門（初→2）	高橋（初）	桂（初）	山内（初）	南部（初）	西山（初）

リーダー

隊付　黒宮　小島　　副隊補　五十嵐　大藪（4月より）　西村（4月より）

上級班長　山川　　副長　河原　鶴田（キャンプ）　隊長　山川

―― 一年を振り返って ――

山川 譲

隊長一年生としてはすべての事がはじめてでとまどうことばかり、若いリーダーはじめ団の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。まず自分自身がスカウト活動を理解しリーダーとしての勉強をしきめのこまかい指導をと考えましたがいかんせん未熟ゆえに気ばかりがあせり、父兄のご期待にそえなかったこと、心からおわびいたします。

若いリーダー諸君にはそれぞれいそがしい学校生活のなかではありますがほとんど全員が全行事に参加していただいたことに対し心から感謝します。このことは彼等の今後の人間形成に大いに役立つであろうと信じます。

私としましてもこの一年間不満足ではありましたが、スカウティングを通じていろいろな人達と親しくなり、一社会人としても大いに勉強させていただきました。この上はこの貴重な体験を生かし、より勉強をし38団の充実、発展のため微力ですが奉仕をさせていただく所存ですのでよろしくご指導の程、お願い致します。

反省

班制度：班の自主制は尊重しなければならないがあまりにも放任になりすぎた。リーダー側のチェックがもっと必要であった

進歩制度：進級に対するスカウトの意欲をどうもりあげるかにリーダーとしてはもっと考えるべきであった。ほとんどのグリーンバーが進級をあきらめたきらいがあった。隊集会のあと試験会をしてはどうか

班父兄会：年三回位は開きたかったが一回終わに終った。

集会：家から制服を着用して来ない、（リーダーも含めて）リーダーからあらためなければ改革出来ない。
時間がルーズである。ソングの声が小さい又不正確。

さんぽち：おそまつである。もっと意欲的に作成出来ないものだろうか

けじめ：当初リーダーに対しては役職もしくはサンプケで呼ぶように指示したが全々守られなかった。もっともリーダー同志から改めねばだめであろう。

あそび：スカウト活動をはなれての魚つり等のあそびを計画したが私の怠慢で実行出来なかった。

リーダー研修：本年度は一回だけ行った（中村三之助氏によるK.J法について）本部会議等の時間を利用し団幹部の方々にお願いしてお話をきくことはリーダーにとって大変役立つことだと思う

隊キャンプ：良かったこと悪かったこといろいろありキャンプサイトも天候も変化にとんで思い出多いキャンプであったと思う。鶴田君には大変ご指導いただきました。

昭和55年度 活動報告 〈シニアスカウト隊〉

9/10 班長会議(P.L.M) 年間計画等の話し合い

10/3 隊集会(T.M.) 大テーマ「未知との遭遇」決定
委員会構成員の決定

10/26 P.L.M. 入隊式について

11/1~2 入隊式 夜間ハイク形式
静原キャンプ場付近

11/15 報恩講及.T.M. 団行事について.

12/21. 団行事 "'80年の瀬大集合"

1/31. S.S.T.M. G.S交歓会について.

2/15 S.S.T.M G.S.29団との交歓会

〔以後遠征計画及準備〕

2/25 P.L.M. 及 準備委員会

3/20 S.S.T.M. 100Kmハイク・遠征について.

4/2 P.L.M. 100Km ハイク 打ち合わせ

4/4~5. 100Km ハイク 雨の為 鷹ヶ峰で終了
(予定は 2泊3日で 高槻摂津峡~三井寺)

4/27 S.S.T.M. コース決定

5/11 S.S.T.M.

6/8 S.S.T.M. 登山コース. 大会委員会申込

7/4. S.S.T.M. 隊装備ナド決定

7/18 S.S.T.M.

7/21.24. 遠征打ち合わせ

7/26~8/8 北海道遠征

8/12 反省会

8/30 お別れ T.M.

9/14. 来年度 P.L.M.(山川.黒宮.小島)

3/26~30 大谷スカウト名誉奉仕訓練 参加者 吹田.山川.黒宮.小島

(一年間の活動をふりかえって)

今年の活動の軸は、年度当初に決定した大テーマ"未知との遭遇"であった。年間の活動を通してこのテーマがどの程度生かされたかは、スカウトの個々の感じ方でかなりちがってくると思われるが少なくとも最終の大遠征(はじめの計画では、無人島での生活であった)では北海道の大自然にふれ、忘れかけていたシニアリングの原点をも省りみることができ、大テーマが浮いていたような年度初めの活動であったが最後にきて、何かにめぐり会えたようだ。

昨年の反省に立って今年の方針の中に委員会活動・班長会議・各班集会の充実と責任分担をくみ入れ隊の組織化を計ったのだが始動年度ということで各個人の自覚がもう一つ足りなかったがその中でも団行事における野外活動委員会や遠征の準備段階での委員会の活動に活性化は見られたと思う。この方針はもちろん来年度に向けてもちろん継続していきより一層の充実を期するところである。

出席率は全般的によくなってきている。はっきり算出してはいないが90%を常にこえていると思う。彼らは何かを求めて又、何らかの魅力にひきつけられて来ているのであるから そこのところは大事に考えてやりたい。ある隊集会ではフォーラム形式でシニアリングの本質的なことを話し合える機会ももてて彼らの本音の一部分として出てきてもいる。その期待や要求を自由な形で種々引き出してやることがリーダーとして大切だと考えさせられた。

↓

今後の課題

いかにすれば
- シニアのシニアのためのシニアによる活動ができるか
- シニアスカウト年代の本当のNeedsとスカウティングを結びつけるか
- 本来的自主性をひき出してやれるか
- 進級に意欲の目を向けさせられるか
- 困難なものに立ち向かっていくことをさけがちだが それを砕くほどの勇気と忍耐をもたせることができるか

ナドナド 試行錯誤である.

◦ 進級について

隼章取得 橘 真一君(10/16 地区面接)

技能章 野営管理 9/19 消防 9/19) 橘君
ワラエ 3/8 山岡君,山川君,黒宮君,小島君

宗教章(仏教) 6/19 申請 山川君、黒宮君、小島君

報告者 隊長 本多直樹

ローバ隊 活動報告（昭55年度）・活動計画（昭56年度）

活動指針	1. 毎一回の隊集会（第2日曜 19:30～） 2. 隊集会の報告書を全員に配布（言っ放し・配布係は持ちまわり） 3. ローバリング トゥ サクセス を読んで対談する。 4. 隊費 ¥200/月	同左 ただし、本当の「ローバリング」活動は、各個人の活動にある。 隊費 改定の動きあり。
内容	1. 隊集会 計 11回 平均出席者 5.5人 報告書 10ページ 2. その他隊活動 S55・10月 歓送迎ハイキング・一泊キャンプ 11月 報恩講 12月 「年の瀬大集合」模擬店出店 S56 3月 卒業入学等お祝い一泊 3. 「ローバリング トゥ サクセス」読後観 5つ 4. 地区活動参加 －寸法師の会 一回出席 山川 －寸法師ウリー 松原	1. 予定 10月 17・18 歓迎一泊 10月 24・25 ローバームート参加 12月 地区活動参加 春 お祝いハイキング一泊 六月末頃 六甲縦走 56km 2. 「ローバリング トゥ サクセス」隊集会にて 読みディスカッション えらいでがす
役員	チーフ 山川 勝 会計 松原 顧問 場所確保 連絡 記録 持ちまわり	未定 中西 松原 同左
成果	1. 昭和55年度「活動報告書」全35ページ 2. 今年を振り返り地味ではあるが着実に出席者が増え内容的に充実してきた 3 ほとんどのスカウトがすらすら言えて38回の活動を覚えている。	1. 同様に活動報告書をまとめる予定 2. 地区活動への参加 3 全員の交流を通じ「良き社会人となり幸福な人生をおくる」ことをめざす

RSL 大藤[illegible]

昭和55年度 団委員会開催記録 S55. 9. 2.～S56. 9. 8.

第1回団委員会報告 ―（現在・次期 合同団委員会）昭和55年9月2日(火) 定例合同 於ハウス長休広間。19:47～22:05

出席者－中川、西村、河原、服部、多門、宮本、黒宮、五十嵐、隅田、南、原田、橘、前田、松永、小川、松本、山内、西山、永田、小島、末吉。 欠席者－＊園田、＊西脇、三田、中村。（84％）

第2回団委員会報告――昭和55年10月14日(火) 定例 於団ルーム 20:05～23:-

出席者－西村，中川，河原，橘，多門，松本，原田，松永，服部，中村，五十嵐，前田，南，隅田，小川，末吉，山内。（17名） （出席率71％）

欠席者－＊黒宮，＊西山，＊永田，＊宮本，（以上届出有）。園田，小島，西脇。（計7名）

第3回団委員会報告―昭和55年11月11日(火) 定例 於ハウスホール 20:18～22:05

出席者－小川，西村，中川，橘，多門，松本，原田，服部，中村，黒宮，西脇，前田，南，隅田，末吉，山内，（16名） 出席率67％ （＊88％）

欠席者－＊河原，＊小島，＊松永，＊五十嵐，＊永田。園田，西山，宮本。（8名）

第4回団委員会報告―昭和55年12月9日(火) 定例 於ハウスホール 20:20～22:46

出席者－西村，中川，橘，永田，前田，隅田，西脇，松永，五十嵐，宮本，南，松本，原田，中村，服部，末吉，山内。（17名）

欠席者－＊黒宮，＊小川，河原，多門，小島，西山，園田。（出席率71％，＊79％）

第5回団委員会報告―昭和56年1月14日(水) 定例 於鴨川荘 17:45～18:30

出席者－西村，中川，河原，橘，園田，多門，隅田，南，前田，西山，松永，服部，末吉，山内五十嵐。懇親会出席－小川，中村，永田，松本。

欠席者－西脇，黒宮，宮本，小島，原田（以上届出有）

第6回団委員会報告―昭和56年2月10日(火) 定例 於ハウスホール 20:10～22:15

出席者－小川，西村，中川，橘，多門，前田，松永，松本，宮本，隅田，五十嵐，原田，末吉，山内。（14名） 欠席者－ 南，黒宮，小島，服部，西脇，中村，河原（以上＊）西山，園田，永田。

第7回団委員会報告 昭和56年3月10日(火) 定例 於ハウス長休ホール 20:05～22:10

出席者－西村，中川，橘，隅田，南，五十嵐，原田，松本，中村，小川，山内。（11名）46％

欠席者－黒宮，小島，服部，西脇，松永，前田，河原，西山，園田，永田，末吉，多門，宮本。

第8回団委員会報告―昭和56年4月14日(火) 定例 於ハウス長休ホール 20:05～22:10

出席者－西村，中川，河原，多門，隅田，西脇，五十嵐，永田，宮本，服部，末吉，山内。50％

欠席者－松本，南，橘，松永，黒宮，小川，（以上＊）西山，中村，原田，園田，小島，前田。

第9回団委員会報告―昭和56年5月12日(火) 定例 於ハウス長休ホール 20:10～22:18

出席者－西村，中川，河原，多門，西脇，松本，原田，宮本，前田，園田，服部，小川，末吉，山内。

欠席者－隅田，松永，南，五十嵐，橘，（以上＊）黒宮，小島，河原，西山，永田。 58％

第10回団委員会報告―昭和56年6月9日(火) 定例 於ハウス長休ホール 20:10～22:10

出席者－西村，中川，河原，多門，橘，服部，宮本，原田，永田，隅田，南，前田，小川，山内。

欠席者－松本，五十嵐，松永，西脇，西山，末吉，（以上＊）小島，中村，園田，黒宮。 58％

第11回団委員会報告――昭和56年7月14日(火) 定例 於ハウス長休ホール 20:20～22:50

出席者－西村，中川，小川，河原，橘，五十嵐，隅田，原田，永田，黒宮，西脇，松本，服部，末吉，山内。 欠席者－小島，松永，多門，前田，南。（以上＊）西山，園田，中村，宮本。（63％）

第12回団委員会報告―昭和56年9月1日(火) 定例 於ハウス長休ホール 21:00～22:50

出席者－西村，多門，原田，永田，橘，隅田，南，服部，末吉，山内。（42％）

（リーダー側出席）大藤(俊)，本多，鶴田，山川(譲)，河原(昌)，下坂，榎本，山川(勝)， 小川。

欠席者－中川，西脇，松本，宮本，前田，園田，松永，五十嵐，黒宮，小島，西山，中村，河原，

第13回団委員会報告―昭和56年9月8日(火) 臨時 於ハウス長休ホール 19:44～22:50

出席者－西村，中川，河原，多門，原田，隅田，永田，松永，宮本，黒宮，前田，南，末吉，服部。

欠席者－西脇，橘。（以上＊）松本，五十嵐，小島，西山，園田，中村， （出席率58％）

育成会カブ隊保護者会報告　（野行）

カブ隊年間行事計画の各月実施に依る隊よりの要請を受け保護者会は積極的に援助に参加をして、協力と奉仕をし隊の活動や運営がスムーズに進行するように補佐をしました。又カブ隊保護者の横のつながりをより以上固くして助け合いなごやかな保護者の集いと致しました。其の結果隊の活動に対して十二分の協力が出来ました。

活動記録

10/18　カブ隊新入隊説明会

10/19　隊集会　ハイキング　飯合炊餐　興意船
カレーを準備すし雨のため国本部にて飯合炊餐

11/15　報恩講

11/23　大谷本山報恩講　東本願寺

〃　カブ隊　仮入隊式

12/21　国行事（レセプション）参加

〃　カブ隊　入隊式

12/30　早起き隊集会　カップスードル賛出し

1/18　隊集会　堂中ハイク、興意船　賛出し

2/15　〃　スキー　花背　〃

2/22　テーマ委員会　委員決定

〃　保護者会　親睦会　ミラーホテル

3/28～29
隊集会　1泊　百井青少年村
輸送、賛出し、

4/19　隊集会　サイクリング　飯合炊餐
雨のためサイクリングのみ　下鴨神社へ

5/24　隊集会　陶器製作　炭山輸送

6/6～7
カブラリー用横幕製作

6/21　北山地区カブラリー　舟岡山公園

7/29～8/2
夏合宮　興志庵
輸送　手伝い

8/30　お別れ隊集会

以上

9.26.
野行担当　多門　弘

55年度シニア隊育成会
56年7月10日 北海道遠征説明会　於ハウス長休
積立金以外に50,000円の不足分を徴集する。
今後多額な遠征費がいる時は、積立にしていただくように
希望する。

黒宮

健康安全委員

（担当）園田、西山、原田

12月19日 スカウト傷害保険契約完了。
38団全員の血液型調査記入。
9月16日 日赤救急法講習会開催
9月16日(水) 18日(金) 21日(月) 25日(金) 28日(月)
9月30日(水) 10月2日(金) 5日(月) 以上8日間
参加者 服部（団委員）竹村。井上。小林。
松本道。松本龍。福永。以上7名

55年度進歩担当報告　55/9～56/8

9/17～10/3 日赤救急法講習会　西陣会館
受講者　入矢撤雄、山口明子

11/29 二級進級面接会　ハウス長休
袖岡淳、多門弘之

仮入初級面接会　ハウス長休
西脇、原田、下坂、石田、隅田、南部、山内、西山

12/17 一級進級面接会　ハウス長休
服部憲一

二級進級面接会　ハウス長休
西村文孝、南康成

12/31 二級進級面接会　ハウス長休
前田文彦

6/18 菊章地区面接会　ハウス長休
服部憲一

カブ進級
くま→木野
しか→隅田
うさぎ→宮谷

今年度4月からグリンバーは教育規定に基き2級以上のスカウトとする。進級のはげみになるように。

9/19 野営管理章
消防章 } 橋真一

10/16 隼章 地区面接　橋真一

3/8 ワラエ章　山岡隆久、山川裕之、黒宮秀行、小島庸二郎

組織 拡張 事業報告　　松本 昇

1. CS隊員の募集

イ 入隊申込〆切（55 10 ~~26~~ 6）　申込者数 8名

ロ. 入隊説明会（55・10 18）　於ハウス長休 PM 8:00

入隊希望者8名中 7名出席（1名取消）

入隊確答日を10月26日とし 希望者各人 入隊意志表示、

2 昭和56年度 日本連盟登録申請（計103名）

2月22日(日) AM 9:00 ～ 12:00 厚徳会館 2F会議室

	指導者	隊員	計
団委員	19		19
カブ隊	9	22	31
ボーイ隊	1	22	23
シニア隊	4	12	16
ローバー隊	2	12	14

（役務又は所属等重複する者は主たる役務所属にて登録す）

3. （2月10日）入隊・上進時期移行計画案 審議

3月田の従来迄の入隊 上進時期と日本連盟教育規定に定める入隊 上進時期に、くい違いがある為、そのギャップを修正する。一挙に修正するならば種々の支障を引き起すことが考へられるので第1 第2段階というように除々に修正していく事にした。

4 反省

組織拡張という大役を引き受け、自分の無力を痛感すると共に皆様の御協力を得てやっと形だけでも役務を果せた事、感謝致しております。

在任中、組織拡張に関連した（いや全てのスカウト活動に共通の）問題として何時も考へながら何等決論を見い出せなかった事柄に「学業（特に学習塾とクラブ活動）とスカウト活動との比重」という問題であります。

或る者はこの為休隊、或る者は脱隊等にまで及んだ人もあり、この問題のかゝえる複雑な要素を見るにつけ今更ながらその解決方法の「むつかしさ」に切歯扼腕する次第です。

決局、この問題は各自の御家庭における考へ方、つまり「スカウト活動というものに対する比重のとり方」とも換言出来ると思いますが、その際、仮りに学業に重点を取る場合にも簡単に決論を出さないで「どうしたら両立出来るか」「どのように協力してやればスカウト活動を続けていけるか」等々の努力並びに子供との対話を充分行う事が必要ではないでせうか。

そうでなければ縁あってスカウト活動に参加した事が何の意味もなくなると思います。

皆様の御活躍をお祈り致します

指導者養成担当報告

服部主佐

スカウティング フォーア ボーイズに「そなえよつねに」のモットを覚えていたまえ。と書かれいます。簡単な言葉に深い意味が込められていますがいかがですか……

スカウト活動は単なる集まりではありません。少年のひとりひとりが持っているすばらしい個性を、自分自身で、より豊に伸ばす活動の場です。しかし、現実はなかなかそのような場になっていません。なぜでしょう！ 活動が隊まかせ、少年まかせになっていないでしょうか、また、進級が単にスカウト活動の一貫だと思われているのではないでしょうか。

少年は若木です、単に見ているだけでは、いらぬところに枝が出て、全く違った方向に伸びてしまいます。大地に根を張る大樹となるためには、太陽と水と空気が必要です。常に少年達の考え方、活動の内容に関心を示していただくとともに、進級制度は、単にあることができるだけではない、目標を達成するための手段であるというご理解をしていた

だければ幸いです。よりよき少年を育成するために、一層のご協力をお願いします。

今年度も期待されるリーダーが巣立ちました。

参加者名

入矢徹雄、西村浩行	WB研修所 京都7期	56.5.2 ～5
河原昌史、山川勝也	〃 奈良6期	〃
山川勝也	東山地区第10回 指導者講習会	55.10.4 ～5
入矢徹雄	中央地区第12回 〃	55.11.15 ～16
西村浩行、五十嵐達志	北山地区第13回 〃	56.3.14 ～15

事務担当報告と反省

今年度の"だんぽ～陽蜂"の発行は36号でおわり年間7回の発刊にて終わらせて頂きました。その間、開催されました団委員会は13回を数えます。思い出しますと、発団して20数年という伝統を背景に多数の御父兄の御理解と御協力を得て役務の分担をお願いする下地が充分であったが為に「54年秋団事務局の発展的解消」「55年秋団運営の一本化」と名実そろった団へと歩んでまいりました。

しかしながらこの一年間をふり返って『出席者がいつも限られた人である事』『団委員会でお願いした事柄が遂行されていなかった事』『欠席の事前連絡が無い人の多い事』等を思い起こしますと役務の分担をお願いする下地が充分であった頃と較べて大いに反省し今後考えねばならない事が多くあった様に思います。事務担当の私も含めて『組織の細分化(役務の分担)がそのまま責任の分担化(転嫁)では無い』という事を今後再確認して伝統の名に恥じぬ団委員会であるように発展する事を期待し努力したいと思います。

山内哲雄

日頃皆様には育成会に御理解を賜り厚く御礼申し上げます。さて55年度より当育成会に賛同して載き賛助会員として入会された方々の芳名を御報告致します。

初鹿商店殿、大吉商店殿、富永良一殿(山宗水産)、園田商店殿、三菱銀行中佐美誠一殿、富士銀行出畝店殿、河村織物KK殿、田市商店殿、高畑商店殿、北村商店殿、田村商店殿、多津美織物KK殿、木村清商店殿、福井乳業KK殿、黒中清之助殿、小森裏絹加工殿、橋本博之殿、中栄KK殿、野渕佳久殿、(株)堀九殿、白綾花大庭(株)殿、一秀織物協同組合殿、(株)沢屋殿、諏訪嘉男殿、(株)長谷川織物殿、加島龍治殿、(株)浅田殿、(株)都殿、戸田耕三郎殿、馬場商店殿、小野邦夫殿、高橋勇殿、長谷川恒一殿、長谷川商店殿、前田五郎殿、小椋久生殿、吉村雅殿、石黒平八郎殿、原田利正雄殿、西村商店殿、東田昭義殿、西田栄一殿、鋸屋三郎殿、鋸屋慎三殿、栗本博殿、金繁勲殿、　以上46名　80口 順不同

新年度もより多くの御理解ある賛助会員の芳名を報告出来ます様よろしくお願い致します。

昭和56年度 育成会収支決算書

自 1980年9月1日
至 1981年8月31日(単位:円)

支出の部 科目	予算	決算	差異	収入の部 科目	予算	決算	差異
登録保険料	300,000	192,638	107,362	育成会費	1,084,000	999,000	85,000
ハウス管理費	148,400	149,000	△ 600	賛助会費	-	160,000	△ 160,000
研修補助費	110,000	41,730	68,270	維持会費	-	68,000	△ 68,000
団行事費	150,000	160,279	△ 10,279	利息配当金	-	44,971	△ 44,971
団備品費	200,000	134,920	65,080	雑収入	-	57,100	△ 57,100
慶弔費	80,000	36,000	44,000	入団費	16,000	14,000	2,000
団事務費	50,000	79,270	△ 29,270	小計	1,100,000	1,343,071	△ 243,071
予備費	21,600	0	21,600	年間行事費	1,182,000	1,736,000	△ 554,000
各隊活動費	1,332,000	2,270,277	△ 938,277	内訳 (カブ隊)	518,400	475,200	43,200
内訳 (カブ隊)	584,400	587,861	△ 3,461	(ボーイ隊)	462,000	462,000	0
(ボーイ隊)	508,000	751,126	△ 243,126	(シニア隊)	201,600	798,800	△ 597,200
(シニア隊)	239,600	931,290	△ 691,690				
次年度繰越金	-	141,168	△ 141,168	前年度繰越金	120,000	135,731	△ 15,731
合計	2,402,000	3,214,802	△ 812,802	合計	2,402,000	3,214,802	△ 812,802

※

貸借対照表

1981年9月31日(単位:円)

借方		貸方	
現金	23,544	積立金	150,000
預金	217,484	預り金	23,040
振替貯金	33,190	次年度繰越金	141,168
		(前年度繰越金)	135,731
		(本年度剰余金)	5,437
合計	314,218	合計	314,218

上記の通り相異ないことを報告致します

昭和56年9月21日

団会計 橋 愛治

※ [各隊活動費内訳]

	夏期活動費	活動費補助額	合計
カブ隊	474,400	113,361	587,861
ボーイ隊	486,052	165,300 (99,774)	751,126
シニア隊	798,800	132,490	931,290
合計	1,759,352	510,925	2,270,277

昭和56年度の収支について監査した結果 適正に処理されていることを報告致します。

1981年9月26日 監査人 石田 敬輔 (印)
〃 三田 兼治 (印)

昭和56年度　団役務分担　10.17.現在

（顧　　問）小川玄諦
（育成会長）中川恵造
団委員長　西村泰一
副団委員長　河原幸一
団会計　橘　愛治
団委員　多門　弘
〃　永田修二
〃　高橋美知子
〃　小島年姿子
〃　田井中正信
〃　原田保夫
〃　松永　智
〃　石田敬輔
〃　南部忠之
〃　黒宮康昌
〃　松本敬三
〃　宮本　明
〃　五十嵐美紀子
〃　西脇方彦
〃　山川孝子
〃　松本　昇
〃　下坂紀一
〃　山内哲雄
〃　末吉央伯

（名誉会員）　（　　）は総会当日選出する役務であるが、ここでは団委員会での推薦者として載せた。

（会計監査）園田隆三
〃　西山豊太郎

○―財政担当委員
(1) 団の資産を管理。
(2) 団・各隊の年間計画に基づく、年間収支予算の作成および決算報告。
(3) 育成会に対し財政的協力を求める。

○―野営・行事担当委員（野・行）
(1) 団の各行事プログラムの立案、および資材調達。
(2) 各隊のキャンピング適地を選定し実地踏査を行う。
(3) 各隊活動で必要な場合、育成会の協力を求める。
(4) 備品リストを管理し、各隊管理団備品をチェックする。

○―進歩担当委員
(1) スカウトの進歩章獲得について激励を行い認証を与える業務。
(2) 技能章の考査について便宜をはかる。
(3) ちかい、上進、進級の各式典が行われるよう協力する。

○―健康・安全担当委員（健・安）
(1) 集会場の管理。事故防止。キャンプ場実地踏査に参加協力。
(2) スカウト保険加入・継続手続等、スカウト保険担当。
(3) 日赤救急法講習会の案内・手続。

○―組織・拡張担当委員（組・拡）
(1) 新入隊募集の窓口。入隊申込案内、入隊説明会開催準備。
(2) 日本連盟年次登録業務を行う。休隊・退団の窓口。
(3) 団委員会の会合の設営、出欠管理。会議の記録。団報の製作発行。

○―指導者養成担当委員（指養）
(1) 各隊指導者の選任について打診等事前調整。
(2) 各種研修、講習会、研修所、実修所等の受講、入所を援助奨励。
(3) 後継者の発掘。
(4) 苦情受付窓口。

各隊指導者

カブスカウト隊	ボーイスカウト隊	シニアスカウト隊	ローバースカウト隊
（隊　長）下坂紀一	隊　長　山川　譲	隊　長　本多直樹	隊　長　大藪俊一
副　長　奥田純夫	副　長　服部圭佐	副　長　河原昌史	副　長　鶴田茂一
副　長　山川勝也	副　長　西村浩行		副　長　中村三之助
副　長　榎本信也	副長補　五十嵐達志		
副　長　小松耕二	副長補　大藪完爾		
副長補　福永裕子			

（ＣＳ隊隊長は次の隊長が決まるまでの暫定）

昭和56年度育成会収支予算書（案）

自1981年9月1日
至1982年8月31日
（単位：円）

収入の部

科目	予算	前年度決算	差	要
育成会費	1,062,000	999,000	△ 63,000	
入団費	16,000	14,000	△ 2,000	
賛助会費	－	160,000	160,000	
維持会費	－	68,000	68,000	
利息・配当金	－	44,971	44,971	
雑収入	－	57,100	57,100	
小計	1,078,000	1,343,071	265,071	
年間行事費	1,248,000	1,736,000	488,000	
カブ隊	504,000	475,200	△ 28,800	
ボーイ隊	528,000	462,000	△ 66,000	
シニア隊	216,000	298,800	82,800	
前年度繰越金	141,168	137,731	△ 3,437	
合計	2,467,168	3,214,802	747,634	

支出の部

科目	予算	前年度決算	差	要
登録保険料	300,000	192,638	△ 107,362	
ハウス管理費	160,000	159,000	△ 1,000	
研修補助費	100,000	41,250	△ 58,750	
団行事費	180,000	160,279	△ 19,721	
団備品費	150,000	134,920	△ 15,080	
慶弔費	50,000	36,000	△ 14,000	
団事務費	80,000	79,270	△ 730	
各隊活動費	190,000 1,248,000	(571,092) 2,270,277	320,925 571,352	
（カブ隊）	504,000	(474,140) 587,861	29,500	
（ボーイ隊）	528,000	(486,052) 571,126	41,948	
（シニア隊）	216,000	(798,800) 931,290	582,800	
予備費	9,168	0	△ 9,168	
災害復旧金	0	141,168	141,168	
合計	2,467,168	3,214,802	747,634	